

## // 会社の概要 (2020年11月30日現在)

商号 アルテック株式会社  
設立年月日 1976年5月15日  
資本金 5,527,829千円  
従業員数 138名 (グループ全体402名)  
所在地 東京都中央区入船二丁目1番1号  
住友入船ビル2階

## // 役員 (2021年2月25日現在)

代表取締役会長 張 能 徳 博  
代表取締役社長 池 谷 壽 繁  
取締役常務執行役員 陶 山 秀 彦  
取締役執行役員 井 上 賢 志  
社外取締役 宮 本 康 廣  
社外取締役 荒 井 敏 明  
社外取締役 中 尾 光 成  
常勤監査役 藤 田 清 貴  
社外監査役 石 川 剛  
社外監査役 豊 島 絵

執行役員 山 岸 利 光  
執行役員 于 勇  
執行役員 山 根 清 秋  
執行役員 野 上 彰  
執行役員 澁 谷 博 規

## // 株式の状況 (2020年11月30日現在)

発行可能株式総数 40,000,000株  
発行済株式の総数 19,354,596株  
株主数 6,018名  
大株主

株主名	持株数	持株比率
	株	%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	994,400	6.47
竹内正明	915,000	5.96
株式会社三菱UFJ銀行	505,920	3.29
関西チューブ株式会社	485,000	3.16
共同印刷株式会社	432,900	2.82
株式会社アルミネ	391,000	2.55
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	377,600	2.46
村永八千代	376,576	2.45
由利和久	350,276	2.28
有賀洋	339,600	2.21

(注) 1. 当社は自己株式を3,995,038株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
2. 持株比率は自己株式 (3,995,038株) を控除して計算しております。

## // 株主メモ

事業年度 毎年12月1日から翌年11月30日まで  
定時株主総会 2月  
11月30日  
期末配当金受領株主確定日 5月31日 (中間配当を実施する場合)  
中間配当金受領株主確定日 5月31日 (中間配当を実施する場合)  
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
(特別口座の口座管理機関)  
同連絡先 〒137-8081  
(郵便物送付先) 新東京郵便局私書箱第29号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
電話 0120-232-711 (通話料無料)  
電子公告により当社のホームページ  
(<https://www.altech.co.jp/>) に掲載します。  
ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告がでない場合は、日本経済新聞に掲載します。

## 公告の方法

(ご注意)

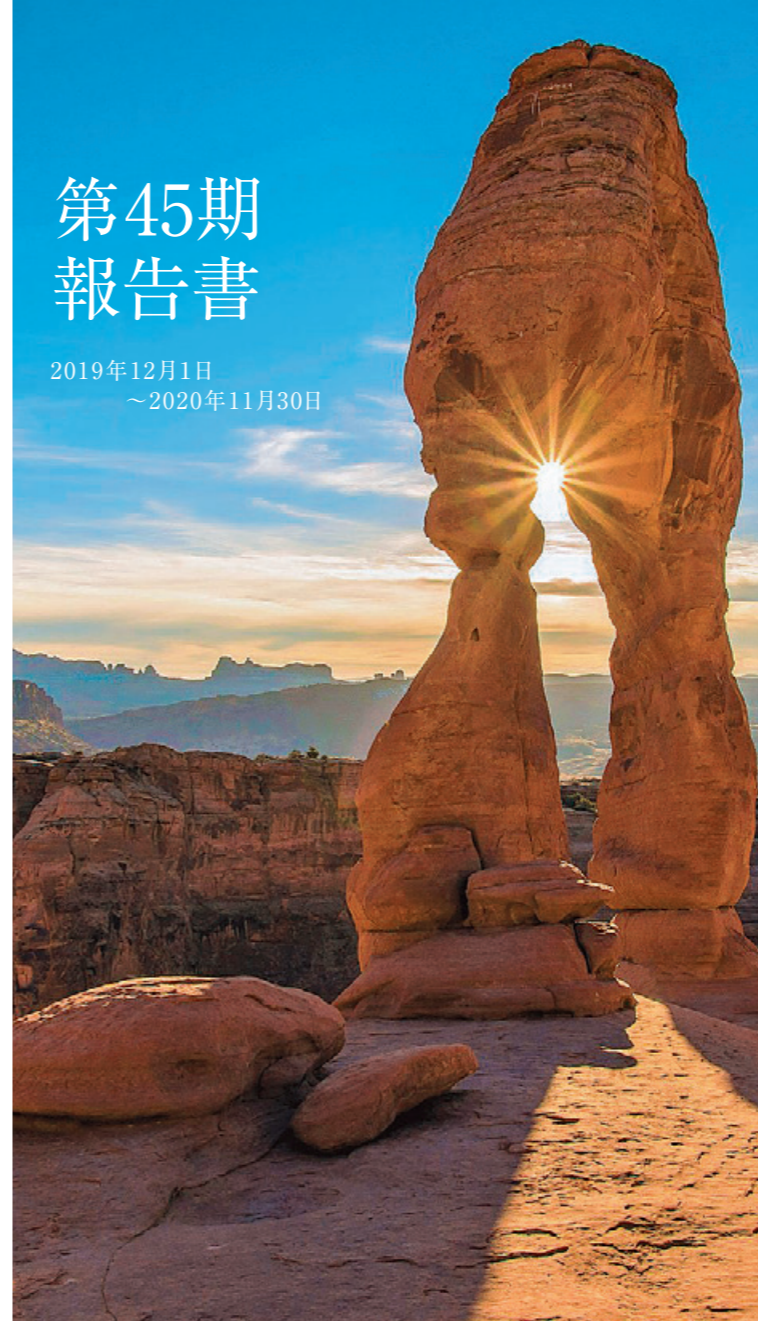
- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



この冊子は環境への配慮のため、FSC®森林認証紙と植物油インキを使用しています。

# 第45期 報告書

2019年12月1日  
～2020年11月30日



ALTECH  
アルテック株式会社

証券コード：9972

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。このたび、2021年2月25日の定時株主総会および取締役会におきまして代表取締役社長に就任いたしました池谷壽繁でございます。当社グループの更なる発展に向けて全力を尽くしてまいりますので、何卒よろしくお願いたします。

これまでの11年間、当社グループは張能前社長のリーダーシップの下、多くのステークホルダーのご協力をいただき、リーマンショック等の苦難を乗り越え、商社事業およびプリフォーム事業を車の両輪として収益基盤の強化を図ってまいりました。

足元の経済環境は、新型コロナウイルス感染症の影響等により経済の下押し圧力となっておりますが、この荒波を乗り切るために、スピード感を持って必要な諸施策を進めてまいります。世の中はSDGs等をキーワードとした持続可能な社会の実現に対する企業への要望が高まっており、2017年度に公表した中期経営計画策定時と比べますと社会経済環境は大きく変わってきております。

急速に変化する時代を見据え、2021年度を初年度とし2025年度を最終年度とする5カ年の中期経営計画を新たに策定いたしました。2025年度には売上高200億円、営業利益10億円、営業利益率5.0%以上、ROE8.0%以上を目標に掲げております。当社グループが永続的に発展・存続し社会貢献できる企業でいられるよう、張能会長と共に、私自身の役割を十分に理解し果たしていく所存でございます。何卒変わらぬご支援を賜りたくよろしくお願申し上げます。

2021年2月



代表取締役会長 張能 徳博



代表取締役社長 池谷 壽繁

## 営業の概況

株主の皆様には平素より格別のご支援、ご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第45期（2019年12月1日から2020年11月30日まで）のアルテックグループの営業の概況についてご報告申し上げます。

当連結会計年度における我が国経済は、当初は企業収益や雇用環境の改善により緩やかな回復基調で推移しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により経済活動が大きく抑制され、雇用情勢や企業収益が悪化する等、極めて厳しい状況で推移しました。また海外においては、新型コロナウイルス感染症の爆発的な流行は世界的な経済減速を引き起こし、各国でワクチンの実用化が進められているものの、今後の先行きは極めて不透明な状況となっております。

当社グループでは、2017年1月に策定した2021年11月期を最終年度とする中期経営計画の達成に向けて、商社事業においては、需要増が見込める既存商権の拡販強化、サービスロボットを中心とする新規商権の開拓強化、ホワイトスペースの攻略強化、プリフォーム事業においては、品質維持および生産性向上、業務効率化への取り組み強化に努めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、海外子会社の一時操業休止、国内外の移動制限に伴う営業活動の停滞等の事業活動への影響が生じました。

その結果、当連結会計年度の経営成績は、売上高12,945百万円（前期比11.1%減）、営業利益649百万円（前期比6.5%増）、経常利益700百万円（前期比19.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益595百万円（前期比16.9%増）となりました。

（セグメント別）

商社事業につきましては、新型コロナウイルス感染症流行の影響により社会経済活動が制限される中、物流・ロジスティクス関連機器等には旺盛な需要があったものの、その他の分野において大型機械の検収遅延やエンドユーザーの設備投資需要の減退等が生じたことで、減収減益となりました。

その結果、売上高は8,033百万円（前期比11.5%減）、セグメント利益は551百万円（前期比6.7%減）となりました。

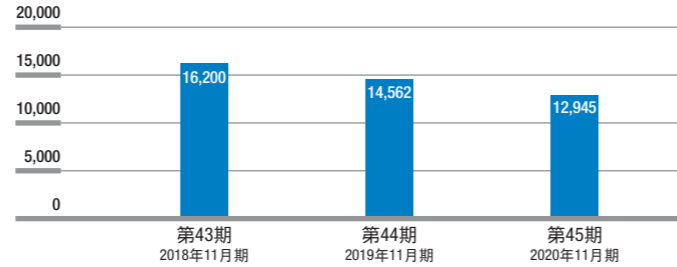
プリフォーム事業につきましては、中国4工場の一時操業停止や外出自粛等の新型コロナウイルス感染症流行による影響に加え、長梅雨の影響を受けて飲料用プリフォームの販売数量が減少し減収となったものの、生産効率改善に努めたことで増益となりました。

その結果、売上高は4,940百万円（前期比10.5%減）、セグメント利益は245百万円（前期比53.8%増）となりました。

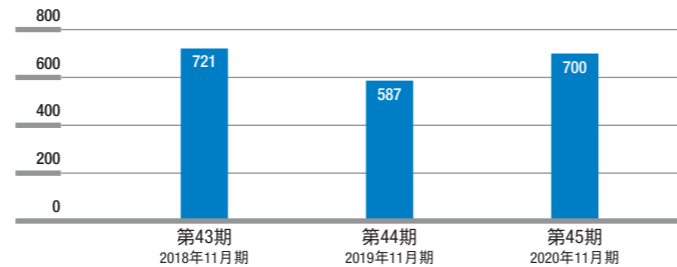
引き続き株主の皆様には一層のご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

## 連結業績ハイライト

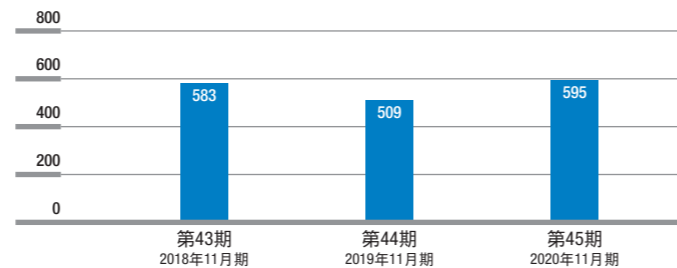
売上高（単位：百万円）



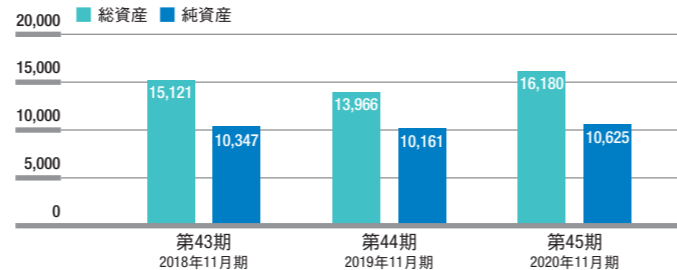
経常利益（単位：百万円）



親会社株主に帰属する当期純利益（単位：百万円）



総資産／純資産（単位：百万円）



## トピックス

### 2020年日本パッケージングコンテスト「経済産業大臣賞」受賞

当社、佐川グローバルロジスティクス株式会社および王子ホールディングス株式会社と共同で実施した、「自動包装システム (CartonWrap) を使用した輸送箱の最適化包装」が、日本包装技術協会主催の包装分野最大のコンテストでもある2020年日本パッケージングコンテストにおいて、最高位の「経済産業大臣賞」を受賞しました。

受賞タイトルにある「自動包装システム (CartonWrap)」は当社が国内で販売する商品で、佐川急便株式会社を中核とするSGホールディングスグループが総合力を結集した国内最大級の次世代大型物流施設「Xフロンティア」において佐川グローバルロジスティクス株式会社が導入しています。

自動包装システム (CartonWrap) は、梱包サイズを最適化することで余分な包装資材 (緩衝材等) や段ボール箱の在庫品種の削減、梱包作業の省人化、物流コスト削減等の導入効果がもたらされます。引き続き物流・製造現場等におけるお客様のニーズに合わせた自動化・省人化等のソリューションの提供を進めてまいります。



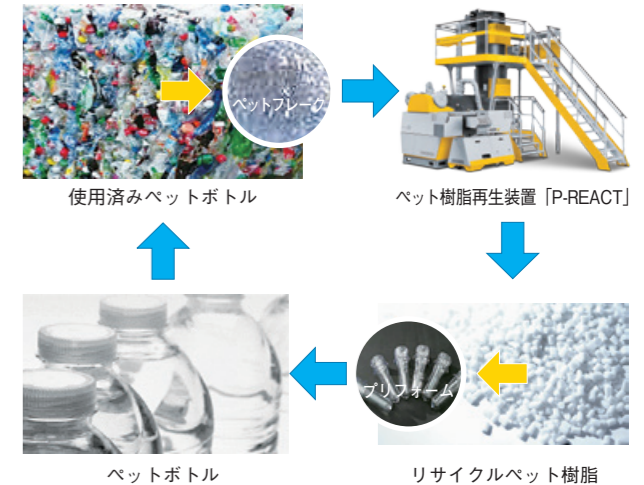
上段：SGホールディングス「Xフロンティア」  
下段：自動包装システム (CartonWrap)

【SDGsで定められた17の目標】  
《持続可能な社会の実現に貢献します》



### 持続可能な資源利用の実現を目指したペットボトルの資源循環に向けた取り組みを始動

清涼飲料業界が発表した「プラスチック資源循環宣言」により、2030年までにペットボトルの100%有効利用の方向性が固まり、プラスチック加工機等の輸入販売やペットボトル用プリフォームの製造・販売を手掛ける当社グループも、本格的にペットボトルの資源循環の取り組みを開始いたします。当社が取り扱うNGR (Next Generation Recycling machines GmbH) 社が開発したペット樹脂再生装置「P-REACT」は、LSP (液相重合) と呼ばれる独自の方式を採用し、ペットボトルの原料となる新品同等のリサイクルペット樹脂をつくりあげます。世界で共通の課題となっているプラスチックごみの削減、地球環境負荷への低減に貢献してまいります。



【SDGsで定められた17の目標】  
《持続可能な社会の実現に貢献します》



【SDGsで定められた17の目標】  
《持続可能な社会の実現に貢献します》

